

褥婦が産後ヘルパー派遣事業に求めるもの -1 か月健診時アンケート調査より-

真田産婦人科麻酔科クリニック

○毛利郁美 神田恵子 鄭香苗 酒井康子 平川万紀子 平川俊夫

福岡女学院看護大学 福澤雪子

【目的】産後1か月褥婦の産後ヘルパー派遣に対するニーズを明らかにし、産後ヘルパー派遣事業に対する産科医療機関の関わり方について検討する。

【研究方法】対象：2016年5月～11月に当院で出産した褥婦511名。

調査期間：2016年6月～12月。調査方法：2週間健診時に調査主旨を説明し、同意を得て無記名自記式質問票を配布。1か月健診時に回収した。個人が特定できないよう倫理的配慮を行った。調査項目：属性、利用希望の有無、希望する手伝いの内容、時間、料金、当院産後ケアセンター利用の有無など。調査結果を集計し、統計ソフトSPSSを用い χ^2 検定を行った。

【結果】回収率93%(473名)。1.属性：年齢中央値32歳。初産婦237名、経産婦236名。有職258名(55%)、無職215名(45%)。2.産後ヘルパー(以下、ヘルパー)の利用希望者283名(60%)。3.望む家事支援(複数回答可)：上位2項目は、「食事の準備・後片付け」269名(57%)、「買い物」234名(49%)。4.望む育児支援(複数回答可)：上位2項目は、「沐浴介助」217名(46%)、「兄弟児の世話」202名(43%)。初産婦が有意に多く望んでいたのは、「授乳介助」($p<0.001$)、「おむつ交換」($p<0.05$)、「沐浴介助」($p<0.01$)、「育児環境整備」($p<0.001$)であり、経産婦が有意に多く望んでいたのは、「兄弟児の世話」($p<0.001$)、「送迎補助」($p<0.001$)であった。5.産後ケアセンター利用者は、有意に多くヘルパー利用を望んでいた($p<0.01$)。6.利用時間：2時間が、252名(58%)と最多。7.2時間当たりの料金は2000円までが395名(89%)。

【考察】回答者の60%にヘルパー利用希望があり、半数以上が食事の準備・後片付けや買い物の家事支援を希望し、ニーズが高かった。産後1か月の初産婦は育児適応過程にあり沐浴介助や授乳介助など育児支援のニーズが高く、経産婦は上の子どもの世話に関する支援ニーズが高い。ヘルパーの利用時間と料金については、世帯収入との関連の検討が必要である。当院産後ケアセンター利用者はヘルパー利用に関心が高かった。

【結論】褥婦の60%にヘルパー利用希望があり、ニーズは大きい。初産婦と経産婦では、求める支援が異なり、ニーズに適応する支援の活用が重要となる。産科医療機関は、産後の包括支援提供の為、褥婦のニーズに基き、ヘルパー派遣事業者や行政などにつなぐ、橋渡しの役割がある。